

故事成語④

かなえのけいちようをとう

① 鼎の軽重を問う

しゅつらんのほまれ

② 出藍の誉れ

しゅしゅ

③ 守株

じょちよう

④ 助長

くんしはひようへんす

⑤ 君子は豹変す

げきりんになふれる

⑥ 逆鱗に触れる

ちようさんぼし

⑦ 朝三暮四

がしんしよくたん

⑧ 臥薪嘗胆

意味

権力者などの実力を疑うこと。

弟子が師よりも優れること。

古い習慣にとらわれ、新しい時代に対応できないこと。

①力を貸して成長を助けること。
②助けることで逆にだめになってしまうこと。

立派な人物は自分の過ちをすぐに改めるということ。

目上の人を激怒させること。

ごまかして相手をだますこと。

目的を達成するため、苦しみに耐え、努力すること。

故事

楚の国の王が、他国の宝である鼎の大小や軽重などを尋ねた。

荀子が青色は「藍」からとると、「藍」よりも青くなると言った。

ウサギが切り株にぶつかって死んでしまった。男はもう一度ウサギを得ようと切り株を見ていたが二度と現れることはなかった。

植えた苗を早く成長させようと引っ張り、結局苗を枯らしてしまった。

豹の毛が季節によつて生え替わり斑紋が鮮やかになるように、態度を急に改めた。

竜のあごの下に生えた逆さ鱗に触れると、竜が激怒したという伝説があった。

猿にエサを「朝3つ、夜4つやる」と言うのと怒ったため「朝4つ、夜3つやる」と言うのが喜んだ。

薪の上で寝ることで身を苦しめ、苦い肝をなめることで報復する気持ち、苦を忘れずにいた。